

隨泉寺寺報

2003 年 4 月号

第 392 号

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季永代経法座

講師 南泉坊住職 岡部 正顕師

講題 「往く道 往かれた道」

重奉母遊芳野 頼 山陽

待輿下坂歩遅々 輿に待し坂を下れば歩みは遅々たり
鶯語花香帯別離 鶯語花香 別離を帯ぶ
母已七旬兒半百 母は已に七旬 兒は半白
此山重到定何時 此山重ねて到るは定めて何れの時ぞ

母を輿に乗せて坂をゆっくりと下ってくる
鶯の声 桜の香も 別れを惜んでいるようだ
母は七十歳 子である私は五十歳になる
だからまた この山と一緒にいることができるのは いつのことだろうか

去年の春に母と久しぶりに花見をしました。
まさしく母は78歳、私も52歳、今度いつ
一緒に花を見ることが出来るだろうか。
毎年桜の季節になるとこの詩を思い出します。



4月の法座予定

- 4月 2日午後6時より…………本部役員会 花見
- 4月 14日昼席午後1時より…………春季永代経法座
- 4月 14日夜席午後7時半より……出張法座 高部
- 4月 15日朝席午前10時より……春季永代経法座 **引き続き仏婦総会**
- 4月 15日昼席午後 1時より……春季永代経法座

意義深い『初参り』

せっかく人間に生まれても、いま、み教えに遇わなかったならば、この世は夢まぼろしのようなものであります。現実不安や苦悩の多い人生にとっていちばん大切なことは、心のよりどころとなる真実のみ教えに遇うことです。

まず、人と生まれて初めてであう儀式が「初参式」です。「初参式」とは新しい正命の誕生を喜び、み教えによってわが子が健やかに育つことを願ってお寺へ初参りすることです。礼讃文に「人身受け難し、いま己(すで)に受く」と示されていますが、人間として誕生する背後には無限の願いがあります。そこでは生命に対する畏敬の念が生じ、生命の尊厳への自覚にめざめ、さらに他の人々や生きとし生けるものへと、その心を広げてゆく姿勢が出てこなければなりません。

生まれた子供には喜びの自覚はなくても、両親や家族の喜びが愛情と一つになって、肌を通してしみこんでゆきます。親子にとって人生におけるお念仏との新たな出逢いであり、阿弥陀如来のご本願をよりどころとおおきながら、力強く生きぬくことを誓う大切な儀式と心得て、積極的に参加してください。

お知らせ

4月15日春季永代経の朝席のあと、門信徒会婦人部の総会を開催します。
平成14年度の行事報告・決算ならびに15年度の行事予定・予算を審議していただきます。会員の皆さん都合を付けてお参りください。お斎(おとき)もあります。

お知らせ

5月8日～10日まで京都・奈良・大阪に研修旅行に行きます。

- 5月8日 京都 大谷本廟 納骨 清蓮院 本願寺門徒宿泊所
 - 5月9日 本願寺参拝 **おかみそり** 東本願寺 日野誕生院 奈良宿泊
 - 5月10日 奈良観光 大阪顕証寺参拝
- 費用 44,000円 納骨 10,500円 おかみそり 10,000円

広島別院 特例帰敬式

3月13日健康上の理由などで本山に出向けない人のために、広島別院で特例帰敬式が行われました。3回目となる今回は39名の方が受式され、法名を受けられました。本願寺から名誉持真の武田照寧様のご出向になり、剃髪の前で一人ひとりにおかみそりを当てられた後、それぞれに『釋』の二文字の法名を授けられました。隨泉寺からも15名の方が受式されました。法名は仏弟子としての名乗りです。釋の字はお釋迦様の一字を頂き、あとの二字はご門主様がお経の中から選んでくださいます。ですからその意味合いを大切に、これから生きていくうえで、拠りどころとしていただきたいものです。



ちびまる子

「まる子 毛糸のパンツをいやがる」の巻

まる子「毛糸のパンツなんてもうはかないよ だれもはいていないもん」
おかあさん「べつにいいでしょ ほかの人のははいていようがはいてなかる
うが あったかいんだから あんたは小さいんだから よけい
なこと気にすんじゃないの」

まる子「いやだよ たまちゃんやお姉ちゃんもはいていないんだって言っ
ているもん わたしだけはいているなんて みんなにバレたら大恥
だよ」

ヒロシ「なんだよオレなんか町内の旅行でモモヒキはいているのみんなに
バレたけど ぜんぜんはずかしくなかったぜ」

まる子「モモヒキならまだいいよ 毛糸のパンツだよ パンツが毛糸で
きているんだよ よく考えたらヘンだよアレ」

ヒロシ「ぜいたくな話じゃねえか」

ヒロシ・・・まる子のおとうさん はまじ・花輪君・・・ともだち

まる子は幼稚園にいるときから、こんな感じである。でもこんな思いではだれに
でもあるのじゃないだろうか。本当をいえば、**ヒロシ**だってあったはずなのだ。大
人になるということは、恥をだんだん忘れていくことで
もある。この巻は、よく誰もがもっている子どものときの
感性を描いていると思う。

これはまる子だけが特異なのではない。あの恥なんか
なにも感じないような**はまじ**が、**花輪君**の家に招かれて、
靴下に穴が空いていて、それが恥ずかしくて椅子に座
りっぱなしのシーンがある。子どもはだれもこんな思い
に深く悩んでいることがあるのだ。だけど**ヒロシ**はもう
忘れてしまっている。ほとんどの大人はそうなのだろう。

さくら ももこの感性が優れているのは、こうしたことを鮮明に思い出させてく
れることにある。

しかし、恥ずかしいという気持ちはなぜなのだろう。みんながしていないから。
みんながしていれば、恥ずかしくもないのか。そういえばこのごろの高校生は ほと
んどお尻が見えるぐらい短いスカートをはいています。こちらが恥ずかしくなっ
てきます。

今後もさまざまに「ちびまる子ちゃん」をもっと眺めてみたいと思います。

さくら ももこ

「誇り」

馬場 啓子

現在 うちが父子家庭である。そう思った時、母がもうこの世に存在しないとい
うことを少しだけ実感した。しかし実際はまだ信じられないのだ。死というもの
が頭では分かっているも理解できていない。ここにはただ、当たり前前が当
たり前でなくなった現実と、母がいない虚無感があるばかりだ。いなくなっては
じめて母の存在の大きさを痛感した。

母は偉大である。なぜなら私を産み育てたからだ。私は天才でもないし、社会に
貢献できるような優れた人間でもない。しかし、いろんな人々に恵まれ、何とか
一人で生活できるだけの生活力も得、私は幸せである。生きていることを幸せに
思える。これ以上の人生が他にあるだろう
か。私はそんな私を、母に誇りに思ってもら
いたいのだ。そして、母と誰よりも濃い
絆でいることを幸せに思うこの家族を、誇
りに思っていて欲しい。もう何をして、母は
何も言ってくれない。だからこそ、私たち
は幸せにならなければならない。それこそ
が母に誇ってもらえることであり、母の死
が報われる唯一の道であると私は信じてい
る。



© Ichiro Tsunoda

お父さんへ

元気でやっていますか？お米をありがとう。

テストも終わって、もうすぐ春休みです。そっちに帰れるのは、バイトの都合で
3/14以降になるのでよろしく。最近は何となくあったかいです。お金もまだあ
るので大丈夫です。風邪など引かないように気を付けてください。ビールは痛風に
悪いそうなので、あまり飲まないように。プリン体というのが、痛風に悪いらし
くて、それをカットしているビールを飲んだらよいそうです。2/13は母さんの
誕生日です。お仏壇を掃除してあげてください。

馬場啓子さんのお母さんは昨年11月、47歳の若さで脳内出血のため突然
浄土へ還られました。

